

1. 設置場所

次の点に注意して設置する場所を決めて下さい。添付設置施工例図を参照下さい。

- (1) 必ず屋内に設置して下さい。
- (2) メンテナンスが容易にできるように保安ポンプの周囲、上面には十分なスペースを設けて下さい。
- (3) 搬入・搬出の開口部及び通路を確保して下さい。
- (4) 床には基礎及び基礎ボルトの設置をして下さい。
- (5) エンジン排気管は必ず屋外に開口して下さい。排気口から 3m以内に可燃物がないよう計画して下さい。
- (6) 遠隔操作盤の設置場所を計画して下さい。
- (7) 自動充電器用の電源 AC100V を設けて下さい。
- (8) 温度・湿度の高くない場所に設置して下さい。
 - ・室内は 40℃以下になるよう吸気口・排気口を設けて下さい。

2. 基礎

- 基礎は保安ポンプの質量・地震及び地耐力を考慮の上計画して下さい。
- M16 の基礎ボルト 6 本で固定して下さい。推奨基礎ボルト J 形 M16×200。

3. 配管

(1) エンジン排気管

- ・排気配管の出口は、建物の外に開口し、先端は雨水等が入らないように下向きにして下さい。
- ・排気口から 3m以内に可燃物を置かないで下さい。
- ・排気配管は可燃物から 30cm 以上離して設置して下さい。また室内温度上昇防止・やけど防止のため断熱材を巻き付けて下さい。
- ・排気配管が建物の壁を貫通する穴の周囲には 60cm 角以上の耐火材を設置して下さい。
- ・エンジン排気口への接続は必ずフレキシブルパイプを設置して下さい。
- ・排気管の抵抗が大きいとエンジンの出力が低下することがあります。サイズは 50A 以上にして抵抗を小さくして下さい。
- ・配管の塗装は耐熱塗料を使用して下さい。めっき配管は熱でめっきが剥がれます。

(2) 真空ポンプ排出配管

- ・真空ポンプの排出配管は、抵抗が大きいと吸水性能が低下します。サイズは 25A 以上にして抵抗を小さくして下さい。
- ・真空ポンプの排出配管は開口部を設けた配管に接続して下さい。

(3) 水配管

(a) 吸水管

- ・ポンプ吸水口への接続は必ずフレキシブルパイプを設置して下さい。ポンプに配管荷重がかからないようにして下さい。
- ・吸水高をなるべく短くとり、吸水管の長さも最短となるようにして下さい。ポンプ NPSHre により検討して下さい。
- ・エアポケットができないように水槽側が低くなるように勾配 (1/50 程度) を付けて下さい。
- ・吸水管末端は管径の 2 倍以上水没させ、水槽壁面及び底より 30 cm 以上はなして下さい。
- ・吸水管末端にはストレーナを設置して下さい。

(b) 吐出管

- ・ポンプ吐出口への接続は**必ずフレキシブルパイプを設置して下さい**。ポンプに配管荷重がかからないようにして下さい。
- ・試運転用の試験配管を設置して下さい。試験配管と吸込み配管はできるだけ離して下さい。吸込み配管から泡を吸込むと流量、圧力が不安定になる他、ポンプが故障することがあります。

4. 配線

保安ポンプ本体と遠隔操作盤の配線は以下により計画して下さい。

- ・配線はなるべく地下配線にして下さい。空中配線にする場合は鋼管に通すか、シールドケーブルを使用して下さい。また、動力線等に沿わせないで下さい。誘導電流による誤動作を防止します。

・配線サイズ

保安ポンプ本体—遠隔操作盤・・・・・・・・・・1.25 mm²以上(配線長さ 100m以内)

・・・・・・・・・・2 mm²以上(配線長さ 100m以上 250m以内)

5. 保安ポンプ室内換気

保安ポンプを最良の状態でご使用いただくためには、室内温度を 40℃以下に保つことが必要です。保安ポンプ運転時の室内温度上昇を適正範囲に抑えるため、ラジエタに排気ダクトを設置し保安ポンプ室は換気を行って下さい。また、エンジン排気管に断熱材を巻き付けて下さい。

(1) 吸気口

- ・保安ポンプのラジエタ側から排風（排熱）するので、吸気口はラジエタの反対側に設けて下さい。
- ・室内に熱溜まりができないように吸気口を設置して下さい。
- ・吸気抵抗が大きいと保安ポンプの温度が高くなる可能性があります。
- ・ダクト抵抗（静圧）は 30 Pa以下になるようにするか、換気扇を設置して下さい。

(2) 排気

(a) ラジエタ排気ダクト

- ・ダクトの抵抗が大きいと排風量が少なくなるため保安ポンプの温度が高くなる可能性があります。
- ・ダクトはラジエタ面積より大きく、長さは短くし、ダクト抵抗を 30 Pa以下にして下さい。
- ・保安ポンプにダクトの荷重がかからないようにして下さい。
- ・メンテナンスのために保安ポンプから 200～300 mm程度はフレキシブルダクトにするかダクトを取外せるようにして下さい。
- ・ダクト出口側から雨水やゴミなどが入り込まないようにして下さい。
- ・ダクト取付寸法は添付図面を参照して下さい。
- ・ダクト内に風圧式シャッターなど抵抗が大きいのものは設置しないで下さい。

(b) 排気

- ・エンジンから放散される熱の排出のため換気扇を設置して下さい。

○エンジンデータ（参考値）

エンジン放熱	5.6 kW	—	—
排気	19.9 kW	4.91 m ³ /min	600℃
ラジエタ	21.9 kW	風量 90 m ³ /min	—
燃焼必要空気量	—	1.64 m ³ /min	—

1. 据付作業

- ベースは基礎ボルトで固定して下さい。
- ベースは水準器を使用し水平になるようにして下さい。
- 基礎とベースとの間にすき間があるときはシムなどですき間をうめて固定して下さい。
- すき間があると基礎ボルト固定時、ベースがひずみカップリングの芯ズレを起こす場合があります。

2. 配管・カップリング芯出し・配線作業

作業時は必ず充電器のコンセントを抜き、バッテリーの(-)端子を外して下さい。

(1) 配管作業

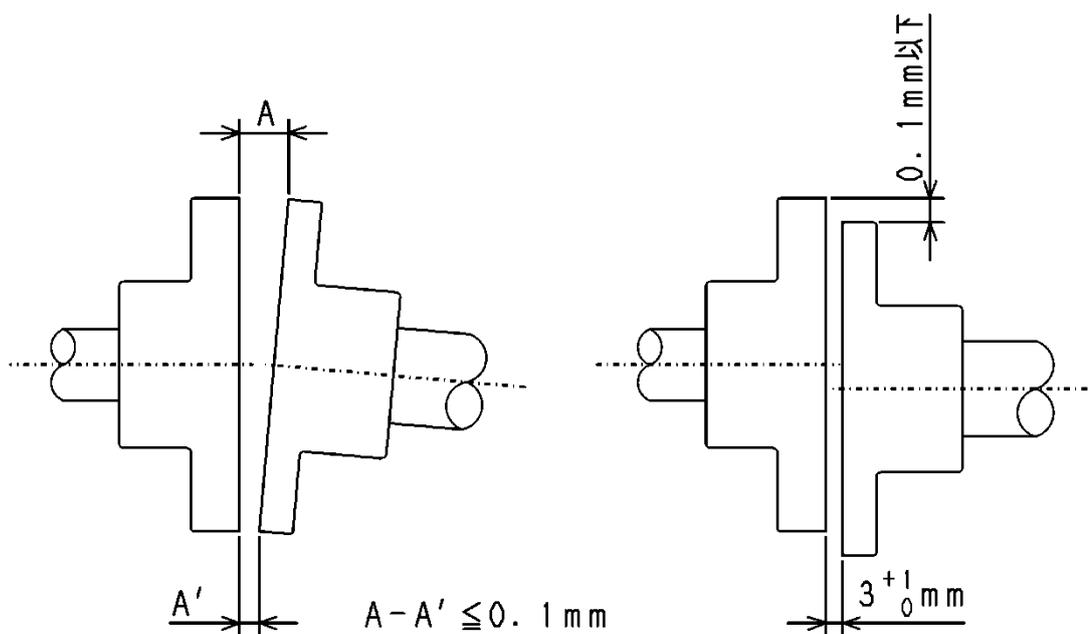
- ・ I. 3. 配管の項により配管して下さい。

(2) カップリング芯出し

- ・ 工場出荷時はカップリングの芯出し済みですが、運搬及び設置の状況で芯がずれることがあります。
- ・ 据付、配管作業終了後にカップリングの芯出しを実施して下さい。
- ・ 同芯度、平行精度は下図精度にて芯出し下さい。
- ・ 芯出しはポンプ側で調節して下さい。ハンマなどで位置を調節する場合はケーシング脚部をたたくようにして下さい。カップリングをたたかないで下さい、軸受を傷める恐れがあります。

(3) 配線

- ・ I. 4. 配線の項により配線して下さい。
- ・ バッテリー接続前に配管・配線のチェックを行って下さい。
- ・ チェックが完了したらバッテリーの(-)端子にバッテリーコードを接続して下さい。
- ・ 充電器の赤黒コードを本体右側面下部リセプタクルに差し込み、商用電源用コードを AC100V のコンセントに差し込んで充電スイッチを ON にしてバッテリーの充電をして下さい。



カップリング芯出精度